

エロすぎて田舎に追放されたシスターの おまんこを貪る話

	トラック01
エミリア	「あら？ こんな時間にどなたでしょう？ って、あなた様は……」
エミリア	「まあまあ……！ 羊飼いの叔父様ではありませんか！ どうされたのです？ こんな夜遅くに……」
エミリア	「って、あら？ あらあら……？ これは……もしかして……」
エミリア	「あのう……叔父様？ つかぬ事をお伺いするのですが……」
エミリア	「もしかして……最近夜眠った後、変な夢を見たりしてませんか？」
エミリア	「例えば……そのう……厭らしくてエッチな夢だったりしてえ……そのまま起きると夢精して……おぱんつ……お漏らししたりしていませんか？」
エミリア	「あらあら♪ 申し訳ありません……急に耳元で変な事を言ってしまったって……」
エミリア	「ただ、何分叔父様のプライベートな事でしたので……誰にも聞かれないよう配慮した結果なので……どうかお許しくださいませ」
エミリア	「まあ、この教会には私しか務めておりませんので杞憂だったかもしれませんが……」

エミリア 「それで、どうでしょう？ 私の懸念は当たっておりましたでしょうか？」

エミリア 「大丈夫です。ここで話したことは神に誓って、誰にも言いふらしたりしませんから。どうか私を信じて素直にお答えください」

エミリア 「まあ……！ やはりそうだったのですね……ここ数日どれだけオナニーしても、毎日夢精してしまふと……」

エミリア 「なるほど……では、本日この教会にいらしたのはその原因について私に相談したかった……といったところなのでしょうね……」

エミリア 「そうですね……十中八九信じられないとは思いますが……実は叔父様が今患っているその症状は病ではないのです」

エミリア 「いってしまえばそれは……『呪い』……と呼ばれる物でして……はい、通常のお薬では決して治らない厄介な代物です」

エミリア 「それも、叔父様にかけている呪いはどうやら淫魔によるもののようにして……その呪いにより恐ろしく性欲が高まり、夜に精力を搾り取られているようです……」

「このまま呪いを放置していると、いつの日か全身の精という精を搾り取られて廃人になってしまうかもしれません……」

「って、あらあら……ふふふ♪ そんな不安そうな顔をしないでください♪」

「叔父様、大丈夫ですよ♪ 確かに現代において呪いというのは非常に珍しく恐ろしい物ですが、きちんとした手順で処置すれば治りますから」

「はい、嘘ではありませんよ？ こういった呪いに対処する為に、今もなお私のようなシスターが現役で存在するのです」

「ん、んんゝ……ん、はあゝ……♪ はい……大丈夫です……大丈夫、大丈夫……♪」

「きちんと責任を持って治してさしあげますから……叔父様は何も心配せず、このまま私の言う通りにしてくださいればそれでいいんです……♪」

「はい……万事私に……教会のシスターである私にお任せくださいませ……ふふふふ……♪」

	トラック02
エミリア	「ではすぐにでも処置を始めましょう♪　まずはどうぞ、祭壇の前で仰向けに横たわってください」
エミリア	「大丈夫です。罰が当たったりしませんから♪」
エミリア	「そもそも祭壇とは、古くから人が神に対し捧げものをする為の場所……人と神とが唯一繋がる場所といっても過言ではありません」
エミリア	「ですから、こういった呪いを払うには祭壇の前がうってつけなのです」
エミリア	「さ、叔父様。どうぞ遠慮なさらず、そのまま横になってくださいませ」
エミリア	「ふふ♪　では私も、上……失礼しますね♪」
エミリア	「ん、はふう……♪　ふふ♪　お・じ・さ・ま♪　あらあ……そんな驚いたお顔をされて……♪」
エミリア	「ふふ♪　まあいきなり抱き着かれたらそうなりますよね……申し訳ありません♪」
エミリア	「で……すが……淫魔にかけられた呪いの処置は、他の呪いと比べると少し特殊でしてえ……♪」

エミリア

「ん、んん♪ こうやって……んふう♪ 異性と抱き合いながら……あまゝい蜜月を過ごし……淫魔が与える以上の快楽を叔父様に教え込み……最高の射精へと導く……」

エミリア

「……それが淫魔の呪いを解く、唯一の方法なんです」

エミリア

「で・す・か・らあ……ふうふう~~~~
……♪ ふっ、ふっ、ふうふう~~~~
~~~~~♪」

エミリア

「ん、んん……♪ ふふ♪ 今夜はこのまま……神様の目の前でいっぱい愛し合いましょう?」

エミリア

「そう……淫魔の与える快楽なんかよりも……」

エミリア

「淫靡に……♪」

エミリア

「怠惰に……♪」

エミリア

「蠱惑的に……♪」

エミリア

「ねっとり♪」

エミリア

「体を重ねて……♪」

エミリア

「愛し合い……♪」

エミリア

「一つになって……♪」

---

---

エミリア

「快樂を貪り合う……♪」

---

エミリア

「さあ……♪ 淫らで長い夜の始まりです……♪」

---

エミリア

「はあゝ……む♪ ちゅ……ちゅ、ちゅ♪ れろ…  
…ちゅぷ♪ ん、ちゅ……れろ、ちゅ、ちゅ♪」

---

エミリア

「んちゅ♪ れろ……れろれろ……れろれろれろれ  
ろ……ちゅぷ……ちゅ、ん、ちゅ♪ れろ……れ  
ろちゅ……ちゅ♪」

---

エミリア

「あら？ 叔父様？ 緊張していらっしゃるのです  
か？ 少し体がこわばってしまっていて……ん、  
ちゅ♪ ちゅ、ちゅ♪ 全身が固くなっています  
よ？」

---

エミリア

「んゝちゅ♪ れろ……れろれろ……ん、ちゅ♪  
じゅる♪ ん、ちゅ♪ れろ……れろれろ…  
んゝ……ちゅ♪ ちゅ、ちゅ♪」

---

エミリア

「はあ、はあゝ……はい、大丈夫です……私を信じ  
て、受け入れてください……淫魔よりも更に上の  
快樂を与え、私に夢中にして差上げますから…  
…」

---

エミリア

「はあゝむ♪ じゅる♪ れろ……れろれろれろれ  
ろ……ちゅぷ♪ ちゅ……ん、ちゅ♪ れろ…  
…れろれろれろれろ……」

---

「れろろ……れろれろ……ちゅ、んちゅう……  
ちゅ、ちゅ♪ はむう……ちゅ♪ れろれろ……  
ちゅ、ちゅ♪」

「ん、ちゅ♪ れろろ♪ れろれろれろれろお……  
ちゅ、ちゅうう……ちゅ♪ れろ……んちゅ♪  
れろれろれろ……」

「ちゅ……ちゅ、ちゅ♪ はあ♪ 叔父様あ……♪  
ちゅ♪ れろろ♪ れろれろれろれろお♪  
じゅるる♪ ちゅ、ちゅ♪」

「んふう……ああ♪ 叔父様のお耳……すっごく甘  
くって……ちゅ♪ れろろ……れろれろれろれ  
ろおろ♪ んちゅ♪ ちゅ、ちゅ♪」

「はあろ♪ ふふ♪ 私の耳舐め、気持ちいいです  
か？ って、あら♪ 叔父様ったらあ♪ お顔……  
……だらしくなってますよ？」

「ふふ♪ もしかして、叔父様はこのようにお耳を  
犯されるのは初めてなのでしょうか……？」

「って、あらあらまああ♪ まさか耳舐めどころ  
か女性経験がありでないとは……！ ……つま  
り叔父様は……性交渉の経験がない、ど・う・  
て・い♪ なのですね……♪」

「それはさぞ性欲も溜まっていた事でしょう……  
ああ……可哀そうな叔父様……♪」



---

エミリア 「ふふ♪ それなら尚更、叔父様には最高の快楽を  
教えて差し上げなければなりませんね♪」

エミリア 「このまま、童貞には刺激が強い、ドスケベシス  
ターのみ・み・な・め♪ いっぱい感じてくださ  
い♪」

エミリア 「あゝむ♪ んちゅ♪ ちゅぷっ♪ ちゅ、れろ  
……れゝゝ……ろれろれろれろお♪ じゅる  
る♪ じゅりゅりゅりゅゝ♪」

エミリア 「ん、はああゝゝゝ……♪ ん、ちゅ♪ れろお  
♪ れろれろれろお♪ じゅる♪ じゅるる  
るううゝゝ♪」

エミリア 「んふふ♪ もっろお♪ お耳の奥まれえ……♪  
じゅる♪ じゅるるう……♪ れろ♪ れゝ  
ろれろれろお♪」

エミリア 「ちゅぷ♪ れろお♪ じゅる♪ じゅるるうう  
ゝゝ♪ じゅりゅりゅ♪ ん、じゅりゅ♪ れろ  
れろお……♪」

エミリア 「はあ……むう♪ れろお♪ れろれろお……♪  
じゅりゅりゅ♪ れろ、ちゅ♪ ちゅ……れろれ  
ろ、れろれろお♪」

エミリア 「んちゅううゝゝ♪ れろ♪ じゅるる♪ じゅ  
りゅ……♪ れゝろれろれろお♪ れろれろれろ  
れろお♪」

---

---

エミリア

「んちゅ……ちゅ……ちゅぷっ……れろ……れろれ  
ろお♪ れろろれろれろ……れろ、ん、  
ちゅ♪ ちゅぷ……ちゅ♪」

エミリア

「んふう♪ れろろれろれろれろお♪  
じゅるる……じゅる♪ じゅぷぷぷっ……んちゅ  
♪ れろれろれろお♪」

エミリア

「ん？ んふう……♪ ちゅ、ちゅうう……♪  
ちゅ……ちゅ♪ ん、ぷはあ♪ はあ、はあ……  
…♪」

エミリア

「叔父様あ……♪ ん、ちゅ♪ ふふ♪ こゝこ♪  
叔父様のお・ち・ん・ぽお……♪ 私の太もも  
に当たっております♪」

エミリア

「はああ……♪ 服の上からでも分かるくらい大き  
く勃起されてえ……♪ ふふ♪ エッチですね……  
…♪」

エミリア

「ああん♪ 大丈夫ですよお……♪ 今は呪いの治  
療中ですから……」

エミリア

「神に仕える清楚で清純なシスターに欲情してし  
まってもいいんです……だって……これは治療な  
んですから……♪」

エミリア

「はい、いいんです♪ 今はただ……快樂の赴くま  
まに……叔父様のおちんぽを大きくさせて、感じ  
てくださいませ……♪」

---

---

エミリア

「あゝむう♪　じゆる♪　じゅりゅりゅりゅ♪  
んちゅ♪　れゝゝろれろれろれろお♪　じゅ  
るる♪　じゆるるるうゝゝ♪」

---

エミリア

「んふう♪　叔父様あ……♪　じゆる♪　れりゅ…  
…れりゅれりゅれりゅれりゅう……じゆるる♪  
じゆる……れゝゝろれろれろお♪」

---

エミリア

「はむう♪　ちゅ♪　れろ……ぷちゅ♪　ちゅ…  
ちゅぷぷ……れろ……れろれろれろれろお♪  
じゆるるるゝゝ♪」

---

エミリア

「んふうゝ♪　ああ♪　叔父様の感じてる顔素敵で  
すう……ちゅ♪　んちゅ♪　れろ……れろれろ…  
…れろれろお♪　じゆる♪　じゆるるる♪　ん、  
ちゅ♪　ちゅ、ちゅうう……♪　ん、ぷはあ♪  
はあ、はあ……♪」

---

エミリア

「んん♪　大の大人が私に夢中になってくれていると  
思うだけで……もつとご奉仕して差し上げたく  
なっちゃいますゝ♪」

---

エミリア

「ふふ♪　ああ……♪　耳の奥……叔父様の耳カス  
が堪ってて……ああ♪　とってもおいしそう……  
♪」

---

エミリア

「すううゝゝ……ふううゝゝ……ふっ、ふっ、  
ふううううゝゝゝゝゝゝゝゝ……♪」

---

エミリア

「あらあら♪ 息だけじゃ耳カス取れませんね…  
…それならあ…舌をねじ込んでえ…♪ しゃ  
ぶり取って差し上げます♪」

---

エミリア

「ん、れゝゝゝ…んじゅ♪ じゅるる♪ じゅ  
りゅりゅりゅりゅりゅうゝゝ♪ じゅりゅれろ  
…れゝゝろれろれろお♪」

---

エミリア

「んふう♪ れゝゝろれろお…れゝゝろれろれ  
ろお♪ じゅるる♪ じゅりゅ…じゅりゅりゅ  
りゅ…れゝゝろれろれろお♪」

---

エミリア

「ん、ちゅ…ちゅ、ちゅ♪ ん、はあ、はあ…  
♪ ふふ♪ 叔父様♪ 分かりますか？」

---

エミリア

「今、私の舌の上に叔父様のくっさい耳カスがたく  
さん散らばってて…これ、全部ごっくんしてさ  
しあげますね？」

---

エミリア

「では…ん、ごくっ…ごくっ、ごくっ…ん、  
ん…ん、ぷはあっ！ はあ、はあ…♪」

---

エミリア

「はふう…ん、ぷはあ…うつ…！ う…！  
ううう…！ つ…！ お、おええええええ  
…！…！」

---

エミリア

「うぐうつ！ うっ！？ お、おぼええええ…！  
うぶっ！ お、おええええええ…！ け  
ほっ！ けほっ、けほっ…！」

---

---

エミリア 「ん、んん……！ お、叔父様……申し訳ありません……」

エミリア 「想像以上に叔父様の耳カスが臭かったのですから……私、神に仕える聖女なのに……お下品にえずいてしまいました……」

エミリア 「ああ……ん、でもお……ふふ♪ 臭くて吐きそうなのに……何故だか……でもおいしく感じますう……♪」

エミリア 「はあ、はあ……♪ はああ……♪ 叔父様あ……♪ ん、ちゆ♪ もっとお♪ もっと耳カスしゃぶり取ってえ……気持ちよくして差し上げますね♪」

エミリア 「……あ……むう……♪ じゆる♪ じゆるるうう……♪ じゆるる♪ んん♪ れ……ろれろれろれろお♪ れろれろお♪」

エミリア 「んちゆう……♪ ちゅぷつ♪ れ……ろれろれろお♪ じゆるる♪ じゅりゅりゅりゅりゅ……♪」

エミリア 「んちゅ……ちゅ、ちゆう……♪ れ……ろれろお♪ じゆるる♪ じゆるる……♪」

---

エミリア

「んふう♪　じゅるるううう♪　ああ♪　叔父様あ♪　じゅるる♪　じゅる……ん、ちゅ♪　れうろれろれろお♪」

エミリア

「れろお♪　ちゅぷっ！　ちゅ、んちゅううう♪　じゅる♪　れろんちゅ♪　ちゅ……ちゅうう♪　れろ、ん、ちゅ♪　ちゅ……ちゅ♪」

エミリア

「はあ♪　叔父様あ♪　好きです♪　叔父様のお耳い♪　とってもおいしいです……♪」

エミリア

「れうろれろれろお♪　じゅるる♪　じゅる……ん、ちゅ♪　れろれろれろれろお♪　じゅる♪　じゅりゅりゅりゅううう♪」

エミリア

「んちゅ♪　れうろれろれろお♪　んふう♪　じゅるるる♪　じゅる……ちゅ♪　れろ……ちゅ、ちゅ……ん、ちゅうう♪　ちゅ♪」

エミリア

「はあ……♪　ちゅ♪　れうろれろれろお♪　じゅるる♪　じゅる……れうろれろれろお♪　れろれろれろれろお♪」

エミリア

「ん、ちゅ♪　ちゅぷ♪　れろお……れろれろれろれろお……♪　じゅるる♪　じゅる♪　ん、ちゅ♪　ちゅ……ちゅ♪」

エミリア

「れろ……じゅるる♪　れろ……れろれろれろれろ……んちゅ……ぷちゅ……れろ……ん、ちゅ♪」

---

エミリア

「ん、ふううう……♪　じゆる♪　れ……ろれろ  
れろお♪　れろれろれろ……ん、ん……  
ちゅ♪　ちゅ、ぷはあ♪　はあ、はあ……はふう  
う……♪」

---

エミリア

「ふふふ♪　ああ……♪　叔父様あ♪　おちんぽ……  
……もう我慢できませんか？」

---

エミリア

「早く窮屈なズボンから出して、シコシコオナニ……  
したいですか？」

---

エミリア

「ふふ♪　で……も……まだ駄目で……♪」

---

エミリア

「もっとも……と性欲を我慢して、一気に解放して  
あげなければ……呪いは解けませんから……」

---

エミリア

「今は苦しいかもしれませんが……まだ射精、我慢  
してくださいね？」

---

エミリア

「ふふ♪　素直な叔父様は好きですよ……？　ん……  
ちゅ♪　ふふふふ♪」

---

エミリア

「では……今度は反対のお耳にいっぱいキスしてさ  
しあげますね……♪」

---

エミリア

「ふふ♪　お・じ・さ・ま……♪　ん……ああ  
……♪　こちらもお……耳の香りを堪能してえ……  
……♪」

---

---

エミリア

「んん……♪ スン……スンスン……すううう……  
くく……♪ ん、んぶっ！ うっ！？ う  
ぶっ！？ おえっ！ お、おええええええ  
えええ……！！」

---

エミリア

「うぶうっ！ お、おええええ……！！ う、うう……  
……うぐう……！！ うっ！？ う、うう……！！ お  
ええええええええ……！！」

---

エミリア

「はあ……けほっ！ けほ、けほっ……う、あ  
ううう……予想はしていましたが、まさかこち  
らのお耳までこんなに臭いとは……」

---

エミリア

「はふうく……うつ、おえ……ふふふ……♪ これ  
はまた……しゃぶりがいのありそうなお耳ですね  
……」

---

エミリア

「では……叔父様……？ 耳の奥、失礼致します  
♪」

---

エミリア

「ん、れくくく……ろれろれろれろ……  
じゆるるる♪ じゆるるるるうう……♪」

---

エミリア

「んぶっ！ じゆるる♪ じゆるるるうう……♪  
じゅっ♪ じゅぶっ！ んちゅ♪ れろ、れろ  
れろおくく♪ じゆるるるるうう……♪」

---

エミリア

「ん、ちゅ……ちゅ♪ れろ、ちゅぶぶっ♪ ん  
ちゅ♪ れろ……れろれろ……れくろれろれ  
ろお♪ じゆるる♪ れろお♪ ちゅ……ちゅ♪」

---



---

エミリア

「んちゅ♪ はあ……♪ 叔父様あ♪ ちゅ……れろ、ちゅ、ちゅ♪ んふふ♪ れるるれろお♪ じゆるる♪ じゆる……ん、ちゅ♪」

エミリア

「はふう……ちゅ♪ あらあ……♪ ん、れる……♪ ちゅ♪ ふふふ♪ 叔父様あ♪ こんなにたくさん耳カスが取れましたよ？」

エミリア

「これではいつか病気になってしまうかもしれまん……今度からは定期的に耳掃除をする事をオススメ致します」

エミリア

「ふふ♪ あむ……」くっ……」く、」く……ん、  
「くっ……う、ううう……ん、くっ……」く、  
「くっ……ん……ぷはあ♪ はあ、はああ……  
……♪」

エミリア

「ああ……あああ……♪ んふう♪ やはり、叔父様の耳カスの味は格別ですねえ……♪」

エミリア

「舌に乗せた際の臭みと喉を通った際の引っかかり方が絶妙で……♪ ああ……子宮の奥がピリピリして、メスとしての喜びが全身に響いてきますう……♪」

エミリア

「はあ、はあ……♪ やあ♪ 叔父様あ……♪ ん、ちゅ♪ ちゅ……ちゅ♪ れる……ん、ちゅ♪ はあ……♪ もっと私に叔父様の耳カスを食べさせてください♪」

---

---

エミリア

「れ〜ろれろれろれろお……♪　じゅるる♪  
　じゅりゅ♪　ん……ちゅ♪　れ〜ろれろれ  
　ろお♪　じゅるる♪　じゅるるうう〜♪」

---

エミリア

「んふう〜♪　じゅるる♪　れ〜ろれろれろお♪  
　じゅるる♪　じゅりゅ♪　んちゅ♪　れ〜ろれ  
　ろれろれろお♪　じゅるる♪　ん、ちゅ♪」

---

エミリア

「はふう♪　んちゅ♪　れ〜ろれろれろお♪  
　じゅるる♪　じゅるるる……ん、ちゅ♪　れ〜ろ  
　れろれろお♪　ん、ちゅ♪　れろ……ちゅ♪」

---

エミリア

「んふう……ああ……♪　また耳カスが沢山……♪  
　んふう……ん、ごくっ……ごくっ、ごくっ……  
　ごくっ……」

---

エミリア

「……ん、んん！？　ん、んぶうっ！？　うっ！  
　げほっ！！　げほっ！　げほっ！　げほっ！  
　うっ！　おぼええええ……！」

---

エミリア

「う、けほっ、けほっ……あ……う、うう……！  
　ああ……耳カスが気管に入って……けほけほっ……  
　けほっ！　けほっ！」

---

エミリア

「はあ、はあ……う、ううう……も、申し訳ありま  
　せん……無様な所をお見せしてしまいましたね……  
　……」

---

---

エミリア

「ああ……ちゅ♪ んちゅ♪ れろ……れろれろ…  
…れろれろれろれろ……じゅる♪ じゅるるる♪  
ちゅ、ん……ちゅ♪」

エミリア

「んちゅ♪ れ……♪ れろれろれろれろお♪  
じゅる♪ じゅるるる♪ ん、ちゅ♪ れろ♪ れ  
……ろれろれろお♪」

エミリア

「はあ、はあ……ちゅ♪ れろ……んちゅ♪ ちゅ  
……ちゅ♪ れ……ろれろれろ……じゅる♪ ん、  
じゅるるる♪ ちゅ……ちゅ♪」

エミリア

「ふう……最後にい……ふうふうふう……  
……ふっ、ふっ……ふうふうふう……  
……♪」

エミリア

「あらあら……ん、ちゅ♪ ふふふ♪ いかがでしたか？ 私のみ・み・な・め♪ 楽しんでいただけましたか？」

エミリア

「ふふ♪ それは何よりです♪ その調子でたっぷり感じて金玉に精子を溜め続ければ、いずれ呪いも解けると思いますので……」

エミリア

「どうか……途中で射精しないよう……頑張ってくださいね？ ん……ちゅ♪ ふふふ……♪」

---

|      |                                                   |
|------|---------------------------------------------------|
|      | トラック03                                            |
| エミリア | 「……ふふ♪ 叔父様……♪ 私と目を合わせてくださいますか……?」                 |
| エミリア | 「はい、ありがとうございます……では、唇……失礼しますね……」                   |
| エミリア | 「ん……ちゅ♪ ちゅ……ちゅ、ちゅ……♪ れろ……ん、ちゅ……ちゅ……ん……ちゅ♪」        |
| エミリア | 「ふふ♪ 叔父様……♪ いかがですか？ 発情したメスの唇は♪」                   |
| エミリア | 「世間ではよくレモンの味などと言われておりますが……ふふ♪ 私の唇、美味しかったですようか……?」 |
| エミリア | 「あらあら♪ そうですか……♪ 気に入っていただけたようですね♪」                 |
| エミリア | 「では……もっとキスしてさしあげますね♪」                             |
| エミリア | 「ん……ちゅ♪ れろ……ん、ちゅ♪ ちゅ……ちゅ♪ れろ……ちゅ……ちゅ……ちゅ、ちゅ♪」     |
| エミリア | 「はあ……もとお……舌を伸ばして……下品に涎を飲ませあいましょう?」                |

---

エミリア

「ん、れ〜……♪ んぷっ、じゅる、じゅるる  
るうう〜♪ ん〜……ちゅ♪ れろ、れろ〜  
♪ ん、じゅるるるうう〜♪」

---

エミリア

「ん、ん〜……ちゅ♪ ちゅ、ちゅ♪ はああ……  
♪ んふふ♪ ああ♪ 叔父様あ……♪ ちゅ♪  
ん、ちゅ♪」

---

エミリア

「ああ……♪ 素敵です……♪ とっても素敵であ  
ま〜いキスです……♪ ん、ちゅ♪ ちゅ……  
ちゅ♪」

---

エミリア

「はあ、はふう……♪ ん、ちゅ♪ れろ……  
ちゅ、ちゅ♪」

---

エミリア

「ん？ あら？ あらあらあ？ ふふ♪ 叔父様っ  
たらあ……いつの間にかズボンが脱げかってま  
すね」

---

エミリア

「もしかして勃起しすぎてボタンが飛んで行ってし  
まったのでしょうか？ ふふ♪ 呪われていると  
はいえ、叔父様の性欲にはビックリです♪」

---

エミリア

「まあこの年まで童貞であったことを考えれば致し  
方ないのでしょうか……」

---

エミリア

「いえいえ、大丈夫ですよ。引いたりなんてしてお  
りませんから」

---

---

エミリア

「むしろ、そうやって性欲を溜めれば溜めるほど、射精したときの勢いは強まり、呪いも吐き出されますので、このままもっと興奮してくださると嬉しいですよ」

エミリア

「でも、中途半端にズボンにはおちんぽも息苦しいでしょうから……」

エミリア

「叔父様♪ズボン、お脱がせますね……？」

エミリア

「まあ♪なんてご立派なおちんぽなのでしょう♪  
ああ……♪こんなに大きく反り返って……♪」

エミリア

「ん、ふう……はあ、はあ……♪ あああ♪ 人とは思えないほど逞しく、ご立派で……♪ まるでお馬さんのおちんぽみたいです♪」

エミリア

「それでいておちんぽの先っぽ……亀頭はチン皮に挟まって……ふふ♪ ああ♪ とっても可愛いおちんぽ様♪」

エミリア

「はあ……♪ 匂いも……スン……スンスン……すう……はああ……♪ ああ♪ 濃くてすっぱい香りい♪」

エミリア

「每晚包茎チンポで夢精していた影響なのでしょう……チン皮の中から残った精子が香ってきて……」

---

---

エミリア 「ああ♪ スンスン……♪ すうう……はふう  
くく……♪ 皮を剥かなくても分かります……」

エミリア 「今おちんぽ様をムキムキすれば……叔父様の……  
チ・ン・カ・ス♪ 沢山付いているのでしょよね  
……♪」

エミリア 「はああ……♪ ん、ごくっ……はあ、はあ……♪  
叔父様……よろしいですか？」

エミリア 「叔父様の包茎おちんぽ様……剥いちやいますね……  
……♪」

エミリア 「ん……ん……しょ……っ……ん、こうやって  
……おちんぽ様の皮をつまんで……えいっ……  
……」

エミリア 「ん、わあ……♪ あ、ああ……♪ これが……叔  
父様のチンカスなのですね……♪」

エミリア 「ああ……♪ 近くに寄らずとも香るむせ返るよう  
なチンカス臭……♪ んん♪ お、おお♪ 嗅  
いでいるだけでメス声を上げてしまいますう♪」

エミリア 「はあ、はあ……♪ もっと近くで嗅がせていただ  
きますねえ♪ んん♪ スン……スンスン……♪  
すうう……はああ……♪」

---

エミリア

「んふう♪ お、お、お、おおお♪ おほおお♪  
♪ おおお♪ 私い♪ 聖女なのにい♪ ぶ、ぶ  
ほおお♪ おおお♪ この匂い嗅ぐだけでえ♪  
下品な声が出てしまいますう♪」

エミリア

「んふう♪ おおお♪ ああ♪ もっとお♪ スン  
スン……すううう♪ んひい♪ お、おおお……  
…おほおお♪」

エミリア

「ああ♪ 叔父様あ♪ あ、ああ♪ 亀頭に満遍な  
く降りかかったチンカスのふりかけえ……♪  
とってもおいしそうに我慢汁と混じってテカテカ  
輝いておりますねえ♪」

エミリア

「ああ♪ ん、ごくっ……ぷはあ……ああ……♪  
思わず生唾を飲みこんでしまうほど香ばしくて……  
…はあ、はあ……♪」

エミリア

「叔父様あ……♪ これも、呪いを解くために必要  
な事ですから……私の清楚で淫らなお口で……シ  
スターのどろっどろの涎で、おちんぽ様を清めさ  
せていただきます……♪」

エミリア

「ん……まずはおちんぽ様に舌を這わせて……ん、  
れ……♪ れろ……んちゅ♪ ちゅ……ちゅ  
♪」

エミリア

「れろ……れろれろ……ちゅぷ♪ ん、ちゅ♪ れ  
ろ……れろ……れ……♪ れろれろ……れろ  
れろれろれろ……♪」



---

エミリア 「ん、はふう……♪ ああ♪ 叔父様のチンカスが舌に乗って……♪」

エミリア 「んふう……♪ ああ♪ 駄目ですう♪ チンカスの臭みで舌が痺れて……えう……上手く、んん……喋れません……♪」

エミリア 「はあ、はあ……♪ ああ♪ 臭い……♪ とつても臭いですう……♪ ああ♪ ん……くっ、くっ、くっ……ぷはあ♪ はあ、はあ……♪」

エミリア 「う……えう……ああ♪ 喉越しもよくてえ♪ ふふ♪ この苦みと臭みがおまんこに……子宮に効いてきますう♪」

エミリア 「ああ♪ ん、ああん♪ やあ……叔父様あ♪ これえ♪ ダメですう……私、聖女なのにい♪ 清楚で清純な神に仕える聖女ですのにい♪」

エミリア 「ああ♪ チンカスなんてくっさい下品な食べ物を飲み込んでしまったせいでえ♪ ああ♪ 疼いてしまいますう……おまんこお♪ おまんこの奥う♪ 子宮のお部屋がお漏らししちゃってますう♪」

エミリア 「はあ、はあ……♪ ああ♪ 駄目え……♪ もつとお♪ もつとチンカスをください……♪ チンカスを……叔父様の臭い包茎ちんぽで造られたオスの排泄物をくださいませう♪」

---

---

エミリア

「はあゝ……む♪　じゆる♪　じゆるるる♪　ん  
ちゅ♪　んん♪　れゝゝ♪　れろれろれろお  
♪　じゅぶ♪　ん、ちゅ、んゝ……ちゅ♪」

エミリア

「んふう♪　ん、んん……♪　じゅぶじゅぶ♪  
じゆる♪　じゅりゅりゅりゅうゝゝ♪　じゅぶ  
♪　れろ、れろれろれろお♪」

エミリア

「ん、んふう♪　んおおお♪　お、おおお♪　ちん  
ぽ様あ♪　んちゅ♪　れろれろれろお♪  
ああ♪　おちんぽ様あ♪」

エミリア

「んちゅ♪　じゆる♪　じゆるるる♪　ん、んん♪  
れゝゝ♪　れろれろお……ん、ちゅ……ちゅ♪  
んふうゝ♪」

エミリア

「はあゝ♪　ああ……チン皮の間にまだこんなにチ  
ンカスが溜まって……♪　はむ、はむはむ……♪  
ん、はむう……♪　むふう♪」

エミリア

「れろ……んん、もつろお……れろゝゝゝ……  
ん、ぷはあっ！　はあ、ん♪　ふふ♪」

エミリア

「このままあ……ん、口の中でチンカスを聖女の唾  
液と混ぜてえ……♪　くちゅくちゅくちゅくちゅ  
くちゅくちゅくちゅくちゅ♪」

エミリア

「んぶ……しよのままあ……んん……」くっ……」  
く、く、く、く、くっ……ん、ぷはあ♪  
はあ、はあ……♪」

---

「ああ♪ ああ、ああ、ああ、ああ……♪  
素晴らしい……とっても素晴らしいですう♪ 叔  
父様あ♪」

「この世にここまで臭くて美味しい食べ物が存在し  
ていたとは……♪ ああ♪ ほのかにおしっこの  
香りも混じって……♪ ああ♪ 聖職者にあるま  
じきメス顔になってしまいますう……♪」

「もっとお♪ もっと激しく……お口全体でおちん  
ぽ様の残尿も、チンカスも、ぜくんぶしゃぶって  
綺麗に清めてあげますね♪」

「あ……んむう♪ じゆる♪ じゆるるるうう  
……ん、じゅぶじゅぶじゅぶじゅぶじゅぶ  
じゅぶじゅぶじゅぶう♪」

「れろ、れろれろれろれろお♪ んぶう♪ じゆる  
じゆるじゆるじゆるじゆるじゆるじゆる  
じゆるじゆるじゆるじゆるじゆるじゆる  
じゆる♪」

「んふう♪ ん、んぶう♪ れろぶちゅ……んぶう  
♪ じゆる♪ じゆるる……じゆるるるるうう  
……ん、んぶうっ！ ぶぶっ！ ぶはあっ！  
はあ、はあ……♪」

「あらあらあ……♪ 叔父様あ？ ダメですよ？  
今、イキそうになりましたよね？ ん、ちゅ♪」

---

エミリア 「まだ射精してはいけません……絶対にダメですか  
らね……？ ふふふ♪」

エミリア 「どうか今は……んちゅ♪ れろれろ……私の激し  
いメス顔フェラに耐えて……オスとしての矜持を  
示してくださいませ♪」

エミリア 「んふふ♪ あゝ……む♪ じゅぶっ！ じゅぶ  
ぶぶうゝ！ じゅる♪ れろ……れゝゝろれろれ  
ろれろお♪」

エミリア 「じゅぶ♪ じゅぶぶぶう♪ んふう♪ れゝゝろ  
れろれろれろれろお♪ じゅる♪ じゅりゆ  
りゆりゆりゆうゝゝ♪」

エミリア 「んぶう♪ じゅぶじゅぶじゅぶじゅぶじゅぶじゅ  
ぶじゅぶじゅぶ♪ じゅぶじゅぶじゅぶじゅぶ  
じゅぶじゅぶじゅぶじゅぶ♪」

エミリア 「ん、んぶう♪ じゅるる♪ れろ、れろれろれろ  
れろお♪ じゅるる♪ じゅぶっ！ んぶぶっ！  
じゅる♪ れろ……れろれろれろ♪」

エミリア 「ああ♪ もつろお……じゅる♪ れろ、れろれ  
ろお♪ じゅるる♪ ん、んぶう……♪ ああ♪  
我慢汁零れちゃう……♪」

エミリア 「じゅる♪ じゅぶぶ♪ ん、んぶう♪ れろ……  
じゅるる♪ じゅぶ♪ ん、れゝゝろれろれろお  
♪ じゅる♪ じゅるるう♪」

---

---

エミリア

「んふう♪ ああ♪ まるで泉のようにチン汁が溢れて……じゆる♪ じゆるるううう♪ じゆる♪ ん、ちゅ♪ れろ、れろれろ♪」

---

エミリア

「はあ、はあ……♪ じゆる♪ じゆるるう……♪ んふう♪ 神に仕えるシスターにこんな……臭いチン汁を飲ませるなんてえ♪ んむ……じゆるる♪ じゆる、んぷはあ……ああ♪ 罪作りな叔父様♪」

---

エミリア

「ん、れろ……れろれろ♪ でもお♪ それも仕方ありませんよね……だって……じゆる♪ じゆるるううう……じゆる♪ れろ、れろれろ……」

---

エミリア

「叔父様は今……じゆる♪ じゆるる♪ ん、んふう♪ 呪いを祓う為に、仕方なくしゃぶらせているだけなんですからあ……んちゅ♪ れろ、れろれろ……♪」

---

エミリア

「そうれす……これは、んちゅ♪ れろれろ……仕方のない事なのです……だってえ……このドスケベすぎる変態フェラも、治療行為なのですから……♪」

---

エミリア

「んちゅ♪ れろ、れろれろれろ……♪ じゆるる♪ じゆるるるううう……♪ じゅぷっ！ ん、れろれろれろお♪」

---

---

エミリア 「町にただ一人の聖女を……んちゅ♪ このくっ  
さいチンカスちんぽで犯していいんですう♪」

エミリア 「んちゅ♪ じゆる♪ じゆるるう……♪  
ん、んふう♪ ああ♪ れろ、れろれろれろ  
……♪」

エミリア 「はい♪ じゆる♪ じゆるるう……♪ そ  
うれすう♪ んちゅ♪ れろ……もつろお♪  
じゆるる♪ じゆるるう……♪」

エミリア 「んふう♪ んふう♪ ぷはあ♪ はあ、はあ……  
♪ れろ、れろれろお……じゆるる♪ じゆる、  
んちゅ♪ ちゅ……ちゅ♪」

エミリア 「叔父様の欲望のままにい♪ メスの頭をわしづか  
みにし、喉奥にチンカスをこびり付かせるつもり  
でえ♪ 思いつきり喉まんこ、犯してくだつても  
いいんですよ……？ ふふふ♪」

エミリア 「ん？ あら？ 叔父様……？ って、ふえ！？  
ん！ んふうっ！ んぶふう……！？ じゆる！  
んぶふうっ！ じゅぶぶっ！ じゆるるるっ！  
んむうっ！ ぶぶふうっ！ んぶんぶんぶんぶ  
んぶんぶんぶふうっ……！！」

エミリア 「ん、んふうっ……！ じゆるる……！ じゅぶぶ  
ぶうっ！ じゅぶじゅぶじゅぶじゅぶじゅぶじゅ  
ぶじゅぶじゅぶ……！ じゅぶじゅぶじゅぶじゅぶ  
じゅぶじゅぶじゅぶじゅぶじゅぶう……！！」

---

---

エミリア 「んほおお……！ おほおお！ んぶう！ じゆる  
る！ じゅぶぶぶう……！ ぶぶっ！ ぶっ！  
お、お「おお……！……」

---

エミリア 「んふっ！ じゆるるっ！ じゆるじゆるじゆる  
じゆるじゆるじゆるじゆるじゆるう……！ ん  
こっ！ お、お「おお……！……」

---

エミリア 「んぶうっ！ お、おじさ……んぶうっ！」「っ、  
お「おっ！ じゆるるう！ じゅぶぶっ！ ん  
ぶっ！ じゆるじゆるじゆるじゆるじゆるじゆる  
じゆるじゆるう……！……」

---

エミリア 「お「おっ！ ぐ、ぐるじい……！ ぶぶうっ！  
んぶぶっ！ お「おっ！ おほおほおほおほ  
おほおほおほおっ！ じゆるる！ じゆるる  
るうう……！……」

---

エミリア 「んぶうっ！ お、おほお……！ お、お「っ……  
……！ じゆる！ じゆるる……じゅりゅりゅりゅ  
りゅりゅ……！ ん」っ！ お！ んぶ  
ぶっ……！ ぷはあっ！ うぶっ！ げほっ！  
げほっ……！ げほげほ……げほっ……！」

---

エミリア 「ん、けほっけほっ……！ う……喉おぐ……チン  
カスが張り付いて……う……えう……！？ うう  
……！ うぶっ！ おええええええええええ  
……！……」

---

---

エミリア

「うぶうっ！ おえええええ……！ げほっ！ げほっ……！ えうっ！ うぶうっ！ けほっ……けほっ、けほ……！」

---

エミリア

「うぶ……おえ……うう……ああ……はあ、はあ……♪ ああ♪ 叔父様あ……えう……はあ……♪ ああ♪ 叔父様あ……♪」

---

エミリア

「まさかここまで激しく私のロマンコを犯し、虐めてくださるとは……♪ ああ……それにチン汁とチンカスを執拗に喉に擦りつけ、胃に流し込んできてくださって……♪」

---

エミリア

「ああ♪ ん、ぐくっ……ぐくっ……ぷはあ♪ はあ、はあ……♪ ああ♪ 叔父様あ♪ ん、欲望に任せた素敵なイラマチオでした♪」

---

エミリア

「これでまた、金玉にも精子が堪って、ぐつぐつと煮えたぎってきましたね……はい、いい調子です」

---

エミリア

「では、もう十二分に性欲も溜まってきたと思われるので、このまま浄化の儀式……セックスを始めたと思うのですが……」

---

エミリア

「実はその前にもう一つだけしておかねばならない事がありました……」

---

エミリア

「叔父様には神聖なおまんこセックスをする為にも心も清めてもらいます……」

---



---

エミリア

---

「はい……聖女から洩れる聖水を……まあ俗な言い方をしてしまえば、私のおしっこを……叔父様に飲んでいただきますね♪ ふふふ♪」

|      |                                                                                      |
|------|--------------------------------------------------------------------------------------|
|      | トラック04                                                                               |
| エミリア | 「ん、んふう……♪ はあ、はあ……♪ 叔父様、いかがですか？ 初めてみる聖女のおまんこは♪」                                       |
| エミリア | 「はあ、はあ……♪ 今まさに、叔父様の目の前に跨り突き出された、神聖なメスまんこ……♪」                                         |
| エミリア | 「少し黒ずんだ無数のビラビラに、マン汁が渴いてできた汚いマンカス……♪ ピンクのマン肉の奥に見える尿道と子宮に繋がるまんこ穴……♪」                   |
| エミリア | 「散々叔父様を興奮させるためにご奉仕したせいかな……おまんこの奥……子宮からメス汁が零れ落ちてしまつて……♪」                              |
| エミリア | 「ふふ♪ ああ……叔父様のお顔にポツポツと垂れてしまつてますね……♪」                                                  |
| エミリア | 「はあ、はあ……♪ ああ♪ 叔父様あ……♪ 今からあ……こゝこ♪ おまんこをお口に押し付けて、いっぱいおしっここの穴を舐めて、しゃぶつて、私のおまんこ虐めてください♪」 |
| エミリア | 「そしてそのまま私の体から聖水を……おしっこを出させて叔父様に飲んでいただき、体の内から清めさせていただきますね♪」                           |
| エミリア | 「ああ……それでは、こちら、失礼致します♪」                                                               |

---

エミリア

「あ、あん♪ ああ♪ 叔父様あ……♪ はあ、  
はあ……♪ ああ♪ ふふ♪ 叔父様の唇……  
とっても温かくて柔らかくて……♪」

エミリア

「ああ♪ おまんこのビラビラがウネウネ吸い付い  
ているのが分かりますう♪ はあ……♪ これえ  
……とっても気持ちいい♪」

エミリア

「さあ♪ 叔父様も遠慮せず、そのお口で聖女のお  
まんこを食べてくださいませ♪」

エミリア

「んあっ♪ あ、あ、あん♪ やあ♪ 叔父様あ……  
♪ あ、ああ……ふふ♪ ああ♪ お上手で  
すう♪」

エミリア

「ふふ♪ ああ♪ まずはあ……♪ んん♪ おま  
んこのビラビラをハムハムするんですね♪ ふ  
ふふ♪ ああ♪ 童貞らしい可愛い舐め方♪」

エミリア

「ああん♪ やあ……♪ 申し訳ありません♪ 馬  
鹿にしたつもりはないのですが……あん♪ ふふ  
♪ 恐る恐る口の中でマン肉を味わう叔父様の姿  
が可愛くって……♪」

エミリア

「ふう、ふう……あん♪ やあ♪ ふふふ♪ ああ  
……この童貞臭い舐め方あ……クセになっちゃい  
ますう……♪」

---

---

エミリア

「ん、んん♪ あ、あ、あ、ああ……♪ でもお♪  
そんなおまんこの入口だけ舐められてもお……  
聖水は出てきませんよお？」

---

エミリア

「さあ、叔父様♪ どうか……もっと奥まで……  
そうです……叔父様に舐めて欲しくてヒクヒクし  
てる、ピンクで厭らしいおしっこ穴……虐めてく  
ださいませ……♪」

---

エミリア

「ん、あ、ああん♪ やあ……♪ 叔父様あ……♪  
そこは違いますう……♪ そこは、ん、あ、あ  
ん……！ おしっここの穴じゃなくてえ……♪  
はあ、はあ……♪ おまんこの、穴ですよ？」

---

エミリア

「ん、はあ、はひいん！ あ、ああ……！ あうう  
……！ ん、んみゆう……！ あ、あう……！  
はあ、はあ……♪」

---

エミリア

「はあ、はあ……♪ あん♪ ふふ♪ 気にしない  
でください……童貞がおまんことおしっここの穴を  
間違える事はよくある事ですから♪」

---

エミリア

「はい、全然……ん、あん♪ 気にしないでいいん  
です……♪ 今日私のおまんこで覚えていってく  
だされば……ああん♪ はあ、はあ……♪」

---

エミリア

「やあ……叔父様ったらあ、ん、あん♪ まったく  
もう……ダメですよ？ 人の話を聞かずに舐め続  
けては……う、あうう……♪」

---







エミリア

「ああ……♪ 叔父様あ……♪ さあ♪ 喉を鳴らしながらお飲みください……♪ はあ、ああ……♪ 聖女のお腹で熟成された聖水いい……♪ 甘くておいしいメスのおしっこお♪」

エミリア

「ん、あ、ああ……♪ どうぞお♪ まだお替りもありますからあ……お♪ おおお♪ ああ……♪ お替りでりゅ……お漏らしいい♪ お替り出ますうう……♪」

エミリア

「はひいいい……！ んおおお♪ お、お、おとおお♪ はあ、はひい……ああ、またあ……叔父様のお口におしっこお♪」

エミリア

「はあ、はひい……♪ お、おおお♪ ああ……♪ 黄色い尿がじよろじよろ注がれてえ♪ ん、はひい……♪ あ、ああ……♪」

エミリア

「はあ、あうう……叔父様あ……さあ……喉を鳴らしながら……あん♪ 思いつきりい……零さず全部飲んでくださいい……♪」

エミリア

「ん、んん♪ ああん♪ はあ、はあ……♪ ああ……あと、んん♪ もう少しで終わりますからあ……お漏らし止まりますからあ……♪」

エミリア

「ん、あうう……♪ あ、ああ……♪ んあ♪ あ、ああ……♪ ん、はあ、はあ……はふううう……♪」



---

エミリア

---

「ん、んふふ♪ ああ……♪ これで、ん……お  
しっこは打ち止め……ですね♪ はあ、はあ……  
ん、はふう……♪」

エミリア

「叔父様あ……♪ 私のおしっこの味はいかがでし  
たか……？ って、あらあら♪ ふふふ♪」

エミリア

「そんな恍惚とした表情をされて……ああ♪ 頑  
張っておしっこを出した甲斐があったというもの  
です♪」

エミリア

「はあ……♪ 叔父様あ……♪ 私のおしっこを飲  
んだことで、体の中も清められたことですし、最  
後に儀式の締めを……セックスを♪ 致しましよ  
うね……♪ ん、ちゅ♪」

|      |                                                                                      |
|------|--------------------------------------------------------------------------------------|
|      | トラック05                                                                               |
| エミリア | 「叔父様はその場で寝そべったまま力を抜いてください……」                                                         |
| エミリア | 「セックスは全て、私の主導で行わせていただきますので……叔父様はただ、マン汁に塗れた聖女の蜜壺をお楽しみいただき、最高のおちんぼ射精をしていただだけで大丈夫です……♪」 |
| エミリア | 「おしっこによって清められた叔父様の体は、既に淫魔にとって居心地の良い場所ではありませんから……」                                    |
| エミリア | 「出ていきたがってる淫魔の呪いを、叔父様の精液と共におまんこの中に注ぎ込み、聖女の子宮で呪いを祓う……それが最後のおまんこセックスなのです」               |
| エミリア | 「ここまで散々叔父様の情欲を煽り、我慢を強いてきましたが、それもこのおまんこセックスで終わリとなります……」                               |
| エミリア | 「ですから……叔父様♪ 最後は思う存分、欲に塗れた激しく厭らしいおまんこぐちゅぐちゅセックス、しましうね♪」                               |
| エミリア | 「ああ……♪ おちんぼ様の先っぽが聖女のメスまんこに触れて……♪ ふふ♪ ああ……♪ 叔父様もこれで童貞を卒業されるのですね……♪」                   |

---

エミリア

「この年まで大切に育ててきた童貞おちんぼ様……♪ あああ……♪ どのような味なのか……今からとっても楽しみで楽しみで……ん、ん♪ マン汁が溢れて止まりません……♪」

エミリア

「ああ……♪ あ、あ、あ、ああ……♪ 叔父様あ♪ いきますね？ 人生最初で最後の童貞卒業セックス……はい、頂いちゃいます♪」

エミリア

「んあっ！ あ、あ、んっ！ ひやああああああああ……！！！？？」

エミリア

「んほおおおお……！！ おおお……！！ お、おおお……！！！ ンふう……！！ お、お、お、おおお……！！！」

エミリア

「んあっ！ お、おおお……！！ お、叔父様ああ……！！ お、おおお……！！ お、おふうう……！！ ふう、ふうう……！！」

エミリア

「は、はひい……♪ ああ……♪ 叔父様のおちんぽお♪ ンほおお……♪ お、おつきい……れすう……♪」

エミリア

「はあ、はあ……ん、はふう……♪ ああ、流石淫魔の呪いが混じった、極悪おちんぼ様ですね……はあ、はあ……ああ……おちんぼ様にかかった呪いが、おまんこの中で浄化されていくのが、ん♪ 子宮で感じられますう……♪」

---



「んひい……♪ お、おお♪ 思わずう……♪  
お下品な声が漏れてえ……♪ ああん♪ おっ  
ほおお♪」

「おおお♪ お、お、お、お、お、お、お、お、  
お、お、お、お、お、お、お、お、お、お、お、  
おっほおおおお♪」

「んふう……♪ ああ♪ 包茎のながい皮がマン  
ひだに引つかかってえ♪ あああ……♪ 好き  
♪ この感触とっても気持ちいいですう……♪」

「ああ♪ あ、あ、あ、ああ……♪ ん、ん  
ふうう……♪ お、おおお♪ チン皮あ……♪  
ああ……♪ 気持ちいいですう……♪」

「はっ、はひい……♪ ああ……♪ 童貞ちんぽで  
もお……こんなにおいしくて気持ちいいなんてえ  
……♪ ん、はひい……♪ ああ……♪ 全然知  
りませんでしたあ……♪」

「はあ、あ、あん♪ やあん……♪ 何ですか？  
童貞おちんぽ褒められて喜んでいるのですか？  
ふふふ♪ あらあら♪ お可愛いおちんぽ様です  
ねえ……♪」

「ん、でしたらあ……♪ ん、ん♪ もうと可  
愛く喘いでいたくためにもお……♪ もう少  
し、んん♪ 激しくおまんこパンパンさせていた  
だきますね？」

「んん♪ ほら♪ おまんこパンパン♪ おまんこ  
パンパン♪ おまんこパンパン♪ おまんこパン  
パン♪」

「さあ叔父様あ♪ もっとお♪ もっと可愛い喘ぎ  
声を私に聞かせてください♪」

「ん、あ、あ、ああ……♪ ここにはあ♪ 私と叔  
父様と神様しかおりませんからあ……♪ あ、  
ひゃん♪ 教会中にい♪ 叔父様の厭らしい声え  
……♪ もっと響かせてくださいませえ……♪」

「ん、はひい……！ んほおお……♪ お、叔父  
様っ！？ そ、そんなにや、急に激し……っ！  
ひゃんっ！？」

「んほおおお……！ お、お、お、お、お、  
お、お、お、お、お、お、お、お、お、お、  
お、お、お、お、お、お、お、お、お、お、  
お、お、お、お、お、お、お、お、お、お、

「おっほおおお……！ おほおお……！ お、  
おおお……！ お、叔父ひやまあ……！ ん  
ほおお♪ おお、おおおお♪」

「う、んうう……！ ああ♪ んあ……！ あ、  
ああ……！ 叔父様あ……！ あ、あ、あ、  
あ、あ、あ、あ、ああ……！」

エミリア

「ああ♪ 叔父様あ……♪ うう……！ んひい……  
……！ お、おとお♪ そこお……！ お、おとお  
♪ おぐう……！ 子宮の入口い……！ ん  
「おお……！ お、お、おとお♪」

エミリア

「ん、んひいい……！ お、おおおお♪ そこ突か  
れるのイイレすう……！ んふう……♪ お、  
おおお♪ ああ……♪ 聖女の入口い……♪ 赤  
ちゃんの入口いい……♪」

エミリア

「はあ、ん、はうう……！　う、ううう……！  
あぁあ……♪　だ、ダメです……叔父様あ……」

エミリア

「あ、あ、あ、あああ……♪ それ以上子宮をコン  
コンされては……ん、んひい……！！ お、  
おおお♪ 叔父様が射精するより先に私がイキま  
しゅうう……♪」

エミリア

「ん、んほおお♪ お、おお♪ あああゝゝゝゝ  
♪ あ、あ、あ、あ、あ、あ、あ、あゝゝゝゝ  
ゝゝゝ♪ ん、んほおお♪ おおおゝゝゝ♪  
お、おおゝゝゝゝ♪」

エミリア

「ああ♪ ほ、本当にイグう……!!!! あああゝ  
ゝ!! イキましゆうう……!! ん、んひい♪  
おおおゝゝゝ!! んあああ……!! イ、イグう  
……!! イグイグイグイグイグイグイグイグうう  
……!!」

---

エミリア

「お、おほおお〜〜〜……♪ ああ！ イグウ  
……！！ イグイグイグイグイグイグイグイ  
グイグイグイグイグイグウウ〜！！ イッ  
きゅウウウウウウウウ……！！」

エミリア

「んっひいいいいいいいい……！！」

エミリア

「お」おお……！！ お、おおお……！！ お  
ほおおお……！！ お、おおお♪ やあ…  
……！！ 叔父様あ……♪ ん、んふう…  
……！！」

エミリア

「お、おおお♪ お」おお♪ お、お、お、  
おおお♪ 出ますうう♪ 出ひやってま  
しゅうう……！！ んひい……！！ お、  
おおお♪」

エミリア

「はあ、はひい……♪ おお〜……！！ お、  
おお♪ ……ん、んふう……♪ ああ……♪  
子宮からとぶとぶお潮吹いてしまつてえ……♪」

エミリア

「ああ♪ 聖女なのにこんな簡単にお漏らしい……  
ん、はうう……♪ ああ♪ 神の前で無様なマン  
汁お漏らしを晒してしまいましたあ……♪」

エミリア

「んあ……♪ はあ、はあ……♪ ああ……♪  
も、申し訳ありません……こんな下品で醜いメス  
の醜態をさらしてしまつて……」

---



---

エミリア 「お詫びになるか分かりませんが……どうかこれで許してくださいませندしようか……？」

エミリア 「ん……ちゅ♪　ちゅ……れろ……れろれろ……んちゅ……ちゅ……ちゅぶっ……ちゅ……ん……ちゅ♪」

エミリア 「はあ、はふう……ふふふ♪　ああ……叔父様の唇……私のおしっこの味が致します……」

エミリア 「ふふ♪　先ほど飲んだ聖水の残り香ですね……ああ……我ながらおいしいおしっこ……♪」

エミリア 「ん……ちゅ♪　れろ……んちゅ♪　れろれろ……このまま……ん……ちゅ、れろ……れろ、ちゅ♪　舐めとって差し上げます……」

エミリア 「ちゅ♪　れろ……れろれろ……んちゅ♪　ちゅぶ……ちゅ、れろれろ……ちゅ……ちゅぶ……ん……ちゅ♪」

エミリア 「ああ……叔父様あ♪　私の涎もお……聖女の下品な涎をお飲みください……♪」

エミリア 「んふう……♪　れ……♪　ん、じゅる♪　じゅるる……ん、ちゅ♪　れろ……れろれろお……♪」

---

---

エミリア

「はあ、はあ……んふう……♪ れ……♪ れろ  
れろ……れ……♪ じゆる♪ じゆるじゆる  
……ん、ちゅ♪ ちゅ、ちゅ♪」

---

エミリア

「はあ、はあ……♪ ああ……叔父様あ……♪  
ん、はあ、はあ……♪ 叔父様さえよければ、こ  
のまま……キスしたまま、またおまんこセックス  
をしたいと思うのですが……いかがでしょう？」

---

エミリア

「はい……上のお口でも下のお口でも……叔父様と  
一つになりたい……繋がっていたいのです……ダ  
メ、ですか？」

---

エミリア

「まあ♪ ふふふ♪ ありがとうございます♪ で  
は、このまま……キスしながらセックス……させ  
ていただきますね？」

---

エミリア

「はぶっ……！ ちゅ、ん……ちゅ♪ じゆる♪  
じゆるるるう……♪ れろ……れろれろれろ  
ろお♪ んちゅ♪ ちゅ……ちゅ、ちゅ♪」

---

エミリア

「んふう♪ あ、あん♪ ああ♪ 叔父様あ♪ ん  
ちゅ♪ ちゅぶっ！ ちゅ……んちゅ♪ れろ、  
れろれろれろ♪」

---

エミリア

「ちゅ♪ ん、ちゅ♪ れろ……れろれろれろ  
ろお♪ ん、んふう♪ ああ♪ 叔父様あ♪ 好  
き……♪ 好きです……ちゅ♪ ちゅ、ちゅ♪」

---

---

エミリア

「ああ♪ ん、んふう♪ こうやってえ……♪ ラ  
ブラブキッスしながらあ♪ おまんこパンパン気  
持ちよくしてくれる殿方なんてえ♪ ん、あ、  
ああん♪ 今までいませんでしたのでえ♪」

---

エミリア

「ん、んふう♪ ちゅ♪ れろ、れろれろれろ  
……♪ んちゅ♪ ちゅ、ちゅうううう♪ ちゅ  
ぱあ♪ ふふふ♪ ああ♪ 叔父様とのラブラブ  
セックス……最高ですう♪」

---

エミリア

「はぶっ♪ ちゅ♪ んちゅ……ちゅ、ちゅ……  
ちゅ♪ ちゅぷぷっ！ んちゅ♪ ちゅ……れ  
ろ、れろれろ……れろ、ちゅ♪」

---

エミリア

「はあ、はあ……♪ ん、あうう……！ ちゅ♪  
れろ、れろれろ……つれろ、ちゅ♪ んうう……  
ちゅ♪ ん、ふああ……♪」

---

エミリア

「はあ♪ あ、ん、ああ……あん♪ やあ……♪  
んおおおうう♪ お、お、お、お、お、お、  
おおお♪」

---

エミリア

「はあ……♪ あうううう……♪ んふう♪  
お、おおお♪ ああ♪ 叔父様あ♪ ん、ちゅ♪  
れろ……れろれろ、ちゅ、ちゅ♪」

---

エミリア

「はあ♪ 好きです♪ 叔父様の事も、おちんぼ様  
の事も♪ ああ♪ 私の事……もっと感じてくだ  
さいませえ……♪」

---



---

エミリア

「んぷうっ！ れろ……れろれろ……じゆるる♪  
じゆりゆ……れっ♪ れっろれろれろ……  
ん、んぷう……♪ ちゆ、ちゆ♪」

エミリア

「はあぁっ……♪ じゆるる♪ じゆる……れっ  
ろれろれろ……んぷふ♪ ちゆ、ちゆ……ちゆ  
♪」

エミリア

「ああ♪ 叔父様あ……♪ んちゆ♪ じゆる♪  
じゆるじゆる……♪ ん、ちゆ♪ れろ……ん  
ちゆ♪ ちゆ、ちゆ♪」

エミリア

「はあ……はあ……♪ ん、ちゆ♪ れろ……れろ  
れろれろれろ♪ ん、れっろれろれろ……♪  
じゆる♪ じゆるるる♪」

エミリア

「んぷう……♪ れろ……ちゆ♪ ん、ちゆ♪ ……  
…ちゆぷ♪ ん、ちゆ♪ ちゆ……じゆるるる♪  
じゆりゆりゆりゆうっ♪」

エミリア

「ん、れろ……れろれろ……んぷ♪ ちゆ……  
ちゆ、ちゆ♪ れろ……れろれろ、ちゆ♪  
ちゆううっちゆ♪ ぷはあ♪ はあ、はあ♪」

エミリア

「んぷう♪ おおお♪ お、お、お、おお♪  
ああ♪ 好きい♪ ん、んぷう……♪」

---

---

エミリア

「んほおお♪ おおお~~~~♪ そこお♪ おちんぽ様の段差が丁度良く引っかかってえ♪ ん、ああん♪ やあ♪ 叔父様ったらあ……♪ 子宮ひっくり返そうとしているのですかあ……？」

---

エミリア

「んもう……聖女の子宮をつぶそうだなんて……ん、ああん♪ 本当に罪作りな叔父様ですう……♪」

---

エミリア

「はあ、ん、あ、ああん♪ お、おおお……♪ ふふ♪ ん、あ、あ、ああ……♪ ん……ちゅ♪ ふふふ♪」

---

エミリア

「ああ……本当に……ん、ああん……叔父様のおちんぽは最高で……ん、お、お、おおお♪ おっほおお……♪ こんな素晴らしいおちんぽ様に出会えた幸運に感謝したいくらいですう♪」

---

エミリア

「はあ、はあ……♪ ん、ああん♪ なのでえ……ん、とびっきりの感謝を込めてえ……♪ ん、んほおお♪ お、おおお……♪ んふう♪ はあ、はあ……♪」

---

エミリア

「ん、んふう……♪ はあ、はあ……♪ こっちのお耳にもお♪ スケベな耳舐め♪ してさしあげますね♪」

---

---

エミリア

「ん……ちゅ♪ ちゅぷ♪ んちゅ♪ れるれろれろれろお♪ ちゅぷっ！ んちゅ♪ れろ……れるれろれろれろお♪ じゅるる♪ じゅぷっ！ ん、ちゅ♪ れろ……れろれろれろ……♪」

---

エミリア

「ん、ん♪ んちゅ♪ ちゅ……ちゅ♪ んちゅ♪ ちゅ……れろ……れろれろ……れろれろれろお♪」

---

エミリア

「んふう……♪ ちゅ♪ れろ……れろれろ……んふ……ちゅ♪ ぷはあ♪ はあ、はあ♪」

---

エミリア

「ああ♪ 叔父様あ……♪ もっと激しくう♪ おちんぽパンパン♪ おちんぽパンパン♪」

---

エミリア

「はいい♪ そうですう♪ お上手お上手ですう……♪ って、ん、あ、あ、あ、ああん♪ やあ♪ そこお♪ 子宮の入口を擦るようにい♪ ん、んひい♪ お、お、お、お、お、お、お、お♪」

---

エミリア

「おほおお♪ あ、ああん♪ んるちゅ♪ ちゅ……ちゅ♪ はふう♪ ああ……そこお♪ グリグリしてくださいい♪」

---

エミリア

「赤ちゃんが出てくるメスの穴あ……♪ プニっとしたおまんこ穴あ♪ 子宮の穴あ♪ 存分に突いて、オスの味を刻み付けてくださいませえ♪」

---

エミリア

「んふう……♪ ん、れろろれろれろれろお  
♪ じゆるる♪ ん、ちゆ♪ れろろれろれ  
ろお♪ じゅぷつ！ じゅぷつ！ ん、ちゆ♪  
れろちゆぷつ♪」

エミリア

「ちゆ♪ れろろれろれろお♪ じゆるる♪  
じゆるる♪ ん、ちゆ♪ れろろれろれろお♪  
れろ……んちゆ♪ ちゆ……ちゆ♪」

エミリア

「んふう♪ れろろ♪ じゆるる♪ じゆるる♪  
じゆるる♪ んちゆ♪ ちゆ……ちゆ♪ れろろ  
れろれろれろお♪」

エミリア

「ちゆぷう……♪ ちゆ、んろちゆ♪ ちゆ、れ  
ろろ♪ れろれろれろお……♪ じゆるる♪  
じゆるるる♪ ん……ちゆ♪ ちゆ、ちゆ♪」

エミリア

「んふう♪ はあ、はあ……♪ ああ♪ 叔父様あ  
♪ ん、あ、ああん♪ ああ……♪ 子宮グリグ  
リい……♪ んひい……♪ お、おおお♪」

エミリア

「ああ♪ 子宮にチンカス擦りつけられています……  
♪ あろろろ♪ あ、あ、ああろろろ♪  
や、うう……♪ あ、あ、あ、あああ……  
♪」

エミリア

「ん、んひい……♪ お、おおお♪ ん、んふう……  
♪ ちゆぷつ♪ んちゆ……れろ、れろれろ……  
ん、れろ……♪ じゆるる♪ じゆるるるる  
るうろろろ♪」



---

エミリア

「ん、んふうう……♪ ああ♪ どんどんちんぽが  
大きくう……♪ んふう……♪ イキそうなんで  
すね？ おちんぽ様あ♪ びゅびゅうう……って  
子宮に吐き出したくなってるんですね？」

エミリア

「ああ♪ んひいひい……♪ おおお♪ お、お、  
お、お、お、お、お、お、お、お、お、お、お、お、  
お……♪」

エミリア

「はあ、はあ……ん、ん……♪ あ、ああん♪  
やあ♪ 叔父様あ♪ 私もお♪ ん、んふう♪  
あ、あ、あ、あ……♪」

エミリア

「は、はひい♪ ん、んっほおお♪ お、お、お、  
お、お、お、お、あ……♪……！！ あ、あああ  
♪ イ、いぎゅうう……！！ う、んほおおお、お  
お♪」

エミリア

「お、お、お、お、お、お、お、お、お、お、  
お、お、お、お、お、お、お、お、お、お、お、お、  
お♪」

エミリア

「ああ♪ あ、あ、あああ……！！ ん  
ひいひい……！！ あああ……！！ も、もう駄目  
……！！ 私も、もう余裕が無く……！！ んん  
ひいひい……！！ おほおお♪ お、お、お、お、  
お、お、お、お、お、お、お、お、お、お、お、お、  
お……♪」

---

エミリア

エミリア

エミリア

エミリア

エミリア

エミリア

---

エミリア

「は、はひいい……♪ おほおお♪ お、お、  
おおお……♪ おっほおお♪ ああ♪ とぷと  
ぷってえ♪ ああ♪ 散々溜めてきた叔父様の性  
欲が……ああ♪ 子宮に届いてますう……♪」

---

エミリア

「ああ……♪ いいれすう……♪ 叔父様あ♪  
ああ……はいい♪ 遠慮しないでくださいい♪  
聖女を孕ませるつもりで、思いつ切り……欲望の  
ままにぴゅっぴゅしてくださいますえ♪」

---

エミリア

「はあ、はあ……♪ ああ♪ 叔父様あ……♪」

---

エミリア

「さあ……♪ 一緒にい……♪ おちんぽぴゅっ  
ぴゅ♪ おちんぽぴゅっぴゅ……♪ はあ、はあ  
♪ ああ♪ おちんぽお♪ おちんぽおちんぽお  
♪」

---

エミリア

「ふふふ♪ ああ♪ まだ出てきてえ♪ ふふふ♪  
もっとお♪ おまんこきゅつきゅしてえ……尿  
道に残った搾りかすも、吸い出してさしあげます  
……♪」

---

エミリア

「はあ、はあ……♪ おまんこきゅつきゅ♪ おま  
んこきゅつきゅうう……♪」

---

エミリア

「ん、んふうう……♪ ああ♪ ふふ♪ さあ♪  
おちんぽもお♪ ぴゅっぴゅ♪ おちんぽぴゅっ  
ぴゅ……♪」

---

---

エミリア

「ああ……♪ あ、あうう……♪ はあ、はあ……♪ お、おお……♪ はあ、はふう……♪ ん、んあ……♪ あ、ああ……♪」

---

エミリア

「ふふ♪ 金玉もしおれてきて……叔父様も、これで打ち止め……ですね♪」

---

エミリア

「ん、はあ……♪ はい、お疲れ様でした♪ これで叔父様の中にいた淫魔の呪いも、全てザーメンと一緒に吐き出されました」

---

エミリア

「これからはきっと、夢精する事もなくなる……訳ではないですよね……♪ だって、もしかしたら今日の私とのひめゴトを夢に見て……夢精♪ してしまう可能性だってあるのですから♪」

---

エミリア

「ふふふ♪ 別に構いませんよ？ 本日の事……思い出してオナニーしてくださっても構いませんし……」

---

エミリア

「また夜にでも教会にいらしてくださいね……呪いなど関係なく、いつでも私がご奉仕してさし上げます……♪」

---

エミリア

「だってえ……私もこの田舎で独り身なものですから……どうしてもここ……おまんこが寂しくなっちゃう日もありますので……♪」

---

---

エミリア

---

「叔父様？　どうか……これからも末永く……聖女  
とのあまゝく蕩けるような夜の宴に……お付き合  
いくださいね？　ふふふふ……♪」